



TOHOKU  
UNIVERSITY

# NEWS LETTER



TOHOKU UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL OF DENTISTRY

2023.12

Vol.  
28

## 東北大学病院「歯科地域医療連携のつどい」が 開催されました



東北大学病院 総括副院長  
歯科診療部門長

江草 宏

2023年11月27日に東北大学良陵会館で、東北大学病院「歯科地域医療連携のつどい」が開催されました。本催しは、2020年度からCOVID-19パンデミックの影響で中止していた東北大学病院歯科部門地域連携懇談会を新たな形で再開したものです。

以前の地域連携懇談会は、本院の歯科部門が主催し、宮城県歯科医師会ならびに仙台歯科医師会の先生方と本院との間で顔の見える連携体制の推進を目的としていました。これにより宮城県の地域歯科医療連携が一段と高まり、期せずして対峙したパンデミックへの連携対応に貢献したものと感謝しております。

この度「つどい」として再開するにあたり、三次医療機関である本院を地域に活かすためにはどのように地域医療の連携体制を構築すべきかに主眼を置き、従来参加いただいていた歯科クリニック（一次医療機関）の先生方に加え、病院歯科（二次医療機関）の先生方をお招きしました。また、主催を歯科部門ではなく東北大学病院とすることで、地域歯科医療連携が医科歯科連携に繋がるビジョンを持った催しとしました。

当日は19時からの開催にも関わらず、会場には、地域の先生方63名および本院関係者43名が参集し、総勢106名の盛会となりました。

張替秀郎病院長および私の挨拶の後、宮城県歯科医師会の細谷仁憲会長ならびに仙台歯科医師会の小菅玲会長から来賓のご挨拶をいただき、議題に移りました。新任診療科長の紹介に始まり、山内健介病院長特別補佐と杉浦剛病院長特別補佐が、本院の口腔外科診療の体制と口腔癌診療・口腔癌検診について説明しました。続いて飯久保正弘副院長が、「いとし（医と歯）の関係」にある本院の医科歯科連携について情報を提供しました。

次に私より、本催しのありかたとして、一次・二次・三次医療機関、さらに将来的にはオブザーバーに行政が加わることで、宮城県モデルとなり得る地域歯科医療／医科歯科連携のプラットフォーム構築を目指すことを提案しました。また、特定機能病院である本院の紹介／逆紹介のあり方と、それを支える連携医療機関データベースを紹介しました。最後に地域医療連携センター長の岡田克典病院長特別補佐（呼吸器外科長）の閉会挨拶で第一部を閉じました。

第二部の懇親会は、飯久保副院長の軽快な挨拶と齋藤正寛副院長の乾杯で始まりました。続く歓談では地域歯科医療や本院の情報を交換すると共に、和やかに杯を交わしながら親睦を深め、参加者にとって有意義な時間を過ごしました。宴もたけなわとなり、浦山美輪副院長（看護部長）の中締めの挨拶の後、服部佳功総括副院長特別補佐の本締めで閉会となりました。

歯科医師だけでなく、医師、看護師、歯科衛生士、病院事務職員と、多職種の医療関係者で地域医療連携について意見を交わせたことは大変貴重な機会となりました。ご参加いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

本院は「患者さんに優しい医療と先進医療との調和を目指した病院」を基本理念に掲げ、最重要事項の一つとして地域医療連携に取り組んでいます。地域の皆様にさらに頼られ、愛される病院になるよう、この度ご参加いただいた皆様と深めた親睦とコンセンサスを基に、地域歯科医療連携を推進してまいります。



▲ 張替病院長の挨拶



▲ 参加者の皆様と集合写真

### INDEX

- p1 ・ 巻頭言／江草宏 総括副院長
- p2 ・ 事業報告／小坂健 研究科長
- ・ 2023年度 オープンキャンパス開催報告
- p3 ・ 事業報告／新部邦透 講師
- ・ PRESS RELEASE
- 『歯数や歯周病と海馬の萎縮速度との関連を解明 重度の歯周病の歯を残すことは海馬の萎縮速度を速める可能性あり』
- p4 ・ 各種おしらせ



## JST創発的研究支援事業採択を目指す先生方へ

咬合修復科  
(分子・再生歯科補綴学分野) 講師

新部 邦透

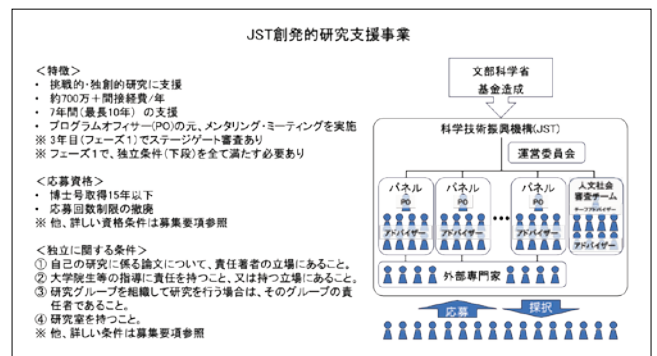


科学技術振興機構 (JST) 創発的研究支援事業は、既存の枠にとらわれない自由で挑戦的・融合的な研究を推進しようとする研究者を募っています。採択された研究には、年平均700万円と間接経費が7年間(最長10年間)に渡り支援されます。最初の3年間でステージゲート審査が行われ、その後4年間の支援継続が決定されます。専門性の異なる14名の初代創発プログラムオフィサー (PO) の元、2020年(1期)に252件、2021年(2期)に259件、2022年(3期)に263件の研究が本事業に採択されています。

私が採択された天谷パネルは、慶應義塾大学皮膚科学の天谷雅行教授がPOを務め、これまで7名の歯科関連研究者が採択されています。本パネルでは定期的なWebミーティングが行われ、単純な研究の進捗報告だけでなく、日本の研究環境の現状と問題点や論文執筆だけではなく研究のアウトプット方法などを議論することで、採択研究者の将来に対する悩みや将来設計など、多岐にわたって相談や議論し、独立をサポートします。また、本年7月には全パネルの採択者が異分野融合を目的に東京に集まり、交流する機会がありました。さらに9月には天谷パネルの採択研究者とアドバイザー全員が一堂に会し、研究者間の融合を推進す

る合宿型のミーティングが行われました。私自身、このミーティングで良い人脈形成ができたことを実感しています。

ステージゲートまでに結果が出なければ支援継続はないのかと日々胃が痛い思いをしていましたが、先日のミーティング時に天谷先生は、「この事業の研究に妥協はしないでください! ホームランを狙って研究を進めてください! 失敗を恐れしないで!」とってくださいました。おそらく私の申請研究は、「歯胚再生」という途方もないチャレンジングな研究テーマであったことがこの支援事業にマッチしたのだと感じています。本年度の申請は終了しましたが、二代目PO体制に代わりこれまでの応募回数制限は撤廃されましたので、博士課程修了15年以下の先生は是非ともチャレンジングで異分野融合を目的とした研究テーマで採択を狙ってください!



### PRESS RELEASE

## 歯数や歯周病と海馬の萎縮速度との関連を解明 重度の歯周病の歯を残すことは海馬の萎縮速度を速める可能性あり

歯の喪失や歯周病がアルツハイマー病のリスクを高める可能性が指摘されてきましたが、歯周病の歯を残すことと歯を失うことのどちらがアルツハイマー病の初期に生じる海馬の萎縮と関連するかは不明でした。

東北大学病院口腔機能回復科および大学院歯学研究科加齢歯科学分野の山口哲史講師らの研究グループは、コホート研究である大迫研究<sup>(注1)</sup>(おおはさまけんぎゅう)のMRI健診参加者を対象に、歯数や歯周病と4年間の海馬の萎縮速度との関連を解析しました。その結果、軽度の歯周病では歯が少ないほど、重度の歯周病では歯が多いほど、左海馬の萎縮が速いことを明らかにしました。

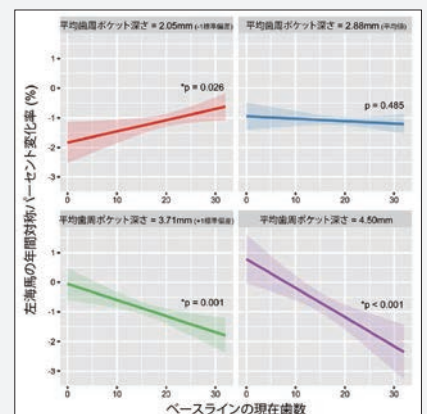
この結果は、単に歯を多く残すだけでなく、健康な歯を残すことが重要であることを示しています。45歳以上の過半数が歯周病を有している日本において、重度の歯周病の歯を残すことが海馬の萎縮を速めるといふ本研究の結果は、認知症予防の考え方に大きな影響を与える可能性があり、今後はより大規模な研究によって検証を進める必要があります。

本研究成果は、2023年7月5日午後4時(現地時間、日本時間7月6日午前5時)米国神経学会学会誌 Neurology (オンライン版)に掲載されました。

注1. 大迫研究: 岩手県花巻市(旧 稗貫郡)大迫町で1984年から30年以上にわたり継続している高血圧と循環器疾患に関する前向きコホート研究です。住民の家庭血圧測定や脳MRI撮影を継続して実施している点が特徴です。歯科検診は2005年から開始し、歯の本数や歯周病の状態など、口腔内の健康情報を記録しています。  
※ 所属と職位は発表当時のものです。

### プレスリリース一覧(2023年4月-11月)

- 2023年 4月27日 歯科口腔麻酔学分野の佐々木晴香助教がSS-F New-Generation Programの第一号研究者に選定されました
- 2023年 5月25日 ヨーグルトの習慣的な摂取と中耳炎予防 全国出生コホート調査(エコチル調査)の乳幼児約10万組のデータから
- 2023年 6月 1日 リンパ行性がん免疫療法における抗腫瘍効果の増強と副作用の軽減を実証
- 2023年 7月12日 歯数・口腔機能の維持は将来の要介護認定リスクを下げる ～歯の本数が要介護発生に与えるリスクは12.0%～
- 2023年 7月12日 子どもの時の社会経済状況も、高齢期の歯数や咀嚼の健康格差に寄与 ～高齢期の社会経済状況や健康行動が一部のメカニズム～
- 2023年 7月12日 歯数との関連では、社会経済状況や歯磨き習慣などが約85%説明、咀嚼困難との関連では社会経済状況や現在歯数などが約40%説明
- 2023年 7月31日 発酵米糠は炎症を抑制し破骨細胞形成および病的骨吸収を制御する ～食による骨破壊制御に期待～
- 2023年 8月30日 歯が少ない人でも、入れ歯を使えば、タンパク質の摂取低下は小さい～入れ歯の使用でタンパク質摂取量が8割改善～
- 2023年 9月13日 ナノボアを用いてmicroRNA発現上昇・減少パターンの同時検出に成功 ～がん診断への新たなアプローチを提供～
- 2023年11月 2日 カテキンメッツ化物でむし歯の予防効果アップ! 口腔細菌が作り出す「酸」を効果良く抑制するための方法を発見



▲ 図. 歯周病の4つの重症度における歯数と左海馬萎縮速度との関連。平均歯周ポケットの深さは、値が大きいほど各歯の歯周病が重度であることを示します。各グラフの縦軸は、値が小さいほど左海馬の萎縮速度が速いことを示します。グラフの傾きが左下がり(歯数が少ないほど、右下がりの場合は歯数が多いほど萎縮速度が速い)ことを示します。\* 統計的に有意な傾き(偏回帰係数) (P<0.05)

詳細は歯学研究科・歯学部ウェブサイトをご覧ください。  
<https://www.dent.tohoku.ac.jp/news/index.html#!press>



■ NEWS (令和5年5月～9月)

- 令和5年5月19日(金)～21日(日)に開催された日本補綴歯科学会第132回学術大会にて、分子・再生歯科補綴学分野の近藤威助教授がバイオロジー部門の課題口演優秀賞を受賞しました。
- 令和5年6月8日(木)～9日(金)に開催された第33回特定非営利活動法人日本顎変形症学会総会・学術大会にて、顎顔面口腔再建外科学分野医員の齊藤志都さんが優秀ポスター発表賞を受賞しました。
- 令和5年6月16日(金)～18日(日)に開催された第33回日本老年学会総会にて、加齢歯科学分野の山口哲史講師が最優秀合同ポスター賞を受賞しました。
- 歯科口腔麻酔学分野の佐々木晴香助教がシンガポールの科学誌Asian Scientist Magazineが発表した2023年度版「アジアの科学者100人」に選出されました。
- 令和5年9月11日(月)～13日(水)に開催された第30回日本免疫毒学会学術年會にて、口腔分子制御学分野の黒石智誠講師が第13回日本免疫毒学会奨励賞を受賞しました。
- 令和5年9月16日(土)～18日(月)に開催された第65回歯科基礎医学会学術大会にて、歯学部4年のリュウドウシンさんが学部学生部門においてモリタ優秀発表賞を受賞、歯科口腔麻酔学分野の佐々木晴香助教が歯科基礎医学会奨励賞を受賞しました。
- 令和5年9月22日(金)～24日(日)に開催された4学会合同学術大会にて、分子・再生歯科補綴学分野大学院生の伏見国弘さんが大会長賞を受賞しました。

ニュースの詳細は、歯学研究科ホームページ  
(<https://www.dent.tohoku.ac.jp/>) をご覧ください。

■ 令和5年度行事予定 (令和5年12月～令和6年4月)

12月7日(木)	大学院入試(2次)
1月27日(土)、28日(日)	歯科医師国家試験
2月10日(土)	学部AO入試Ⅲ期(第2次選考)
2月25日(日)、26日(月)	学部一般選抜入試(個別学力試験)
3月15日(金)	歯科医師国家試験合格発表
3月26日(火)	学位記授与式、謝恩会
4月 3日(水)	入学式、歯学研究科オリエンテーション
4月 4日(木)	歯学部オリエンテーション

■ 人事 (令和5年6月～11月)

昇任	8月	山口 哲史	准教授	加齢歯科学分野
採用	7月	SUKHBAATAR ARIUNBUYAN	助教	顎顔面口腔腫瘍外科学分野
配置換え	8月	伊藤 佳彦	助教	病院 口腔機能回復科
辞職	7月	矢島 健大	助教	口腔器官解剖学分野
辞職	8月	VENKATAIAH VENKATA SURESH	講師	病院 歯内療法科
辞職	9月	COORAY MUTHUTHANTRIGE PRASANGA UPUL	助教	国際歯科保健学分野
任期満了	11月	星川 聖良	助教	小児発達歯科学分野

■ 厚生労働省採択事業

歯周病発見AIアプリケーション「歯周病等スクリーニングツール開発支援事業」  
NTTドコモ、東北大学大学院歯学研究科の共同研究  
詳細は、NTTドコモの報道発表資料をご覧ください。  
([https://www.docomo.ne.jp/binary/pdf/info/news\\_release/topics\\_230929\\_01.pdf](https://www.docomo.ne.jp/binary/pdf/info/news_release/topics_230929_01.pdf))

■ 令和5年度歯学研究科研究者育成プログラム採択者

大竹 航季	分子・再生歯科補綴学	D2
森 里美	分子・再生歯科補綴学	D4
ITT ASSORATGOON	口腔システム補綴学	D4

福島県立会津学鳳中学校による大学見学

歯学イノベーションリエゾンセンター  
異分野共創部門 教授 金高 弘恭

2023年9月14日(木)に福島県立会津学鳳中学校から14名の生徒さんが歯学部見学へお越しになりました。小坂歯学部長の挨拶の後、予防歯科学分野の小関教授による模擬講義、千葉講師・依田講師・金高の引率によるキャンパスツアーを行いました。模擬講義では口腔内から採取したサンプルを顕微鏡で観察したり、キャンパスツアーでは学生実習室や最新教育設備があるスキルスラボなどを巡りました。生徒さん達は、歯学部教員だけではなく、現役の学生にも質問をしながら、熱心に見学されていました。



▲ 小坂歯学部長による挨拶



▲ 小関教授による模擬講義

■ 編集後記

コロナ禍の影響で開催を制限されていた行事やイベントも実施できるようになり、対面授業やオープンキャンパスの開催等、星陵キャンパスにもようやく大学らしい活気が戻ってきました。歯学研究科ではこれまでの経験を活かし、YouTubeやSNS等のプラットフォームも更に活用しながら、皆さまに多様な情報をいち早くお届けできるように広報活動を行なってまいります。今後とも変わらぬご支援のほどよろしくお願い申し上げます。  
(記 河内)

ご意見・ご感想は下記よりお聞かせください  
アンケートフォーム：<https://www.dent.tohoku.ac.jp/enq/news28>



■ 編集・発行

東北大学大学院歯学研究科・歯学部 広報室  
〒980-8575 仙台市青葉区星陵町4-1  
Tel:022-717-8260 Fax:022-717-8279  
E-mail:[newsletter@dent.tohoku.ac.jp](mailto:newsletter@dent.tohoku.ac.jp)  
Facebook:[@Tohoku.University.School.of.Dentistry](https://www.facebook.com/Tohoku.University.School.of.Dentistry)  
X (旧Twitter):[@tohoku\\_uni\\_dent](https://twitter.com/tohoku_uni_dent)  
web:<https://www.dent.tohoku.ac.jp/>